

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

アーミッシュを訪ねて 3 : コミュニティの中での教育

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 七美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5810

コミュニティの中の教育

鈴木七美 (すずき ななみ)

アーミツシユの人々は、制度的教育としての学校には八年学までしか通わないが、学ぶこと (learning) を大切にしている、識字率は一〇〇%といわれる。学ぶことは、生きる糧を得る技術を磨き、神や宗教に関して理解を深めるために不可欠で、生涯にわたって自己教育 (self-education) を続けることが神の意にかなうとされている。

●アーミツシユ・スクールの登場

アーミツシユの子供たちは、現在ではほとんどがアーミツシユ・スクールに通っている。だが、彼らは公立学校を



農場の景色

否定したわけではない。二世代前まではアーミツシユ・スクールもパブリック・スクールとほとんど変わらなかった。ところが二〇世紀に入ると、郊外の公立学校再編の過程で中等教育が義務化された。アーミツシユにとっては容易ならぬ事態であった。彼らには、異なる価値観のもとで子供を教育することなど容認できなかったのだ。そこで独自の学校を持つとする動きが広がり、一九二五年、最初のアーミツシユ・スクールがデラウェア州に設立された。

一九九〇年の時点で、七八四の教区に七二六のアーミツシユ・スクールがあり、二万八一人の子供が九七六人の

教師のもとで学んでいた。ここでは初等教育だけが行われ、生徒は一年生から八年生までの八年生、ひとつの学校の平均生徒数は二八人である。オールドオーダー・アーミッシュの場合、八年生までの初等教育後は高等学校や大学に進むことは禁じられている。

● 学校生活

アーミッシュ・スクールはワンルーム・スクールで、一年生から八年生までが「小さな赤いスクールハウス」と呼ばれる（実際はほとんど白く塗られている）ひとつの教室で授業を受ける。教師はふつう二〇代前半の結婚前の女性で、授業内容は、読み書き、算数などである。科学、体育、コンピュータ関連、性教育はカリキュラムに含まれず、組織的スポーツ、クラブ、キャリア教育、進路指導などもなされない。子供たちは教師と共に祈り賛美歌を歌うが、プロテスタント教会学校で行われるような宗教教育はなされない。宗教教育を担当するのは、家庭と教会である。

「学校は公」、「家庭はプライベート」という明確な区分はなく、学校でも理想とする生活を教えることを目指して

いる。学校の運営には両親や祖父母たちも積極的に関わり、学長、秘書、会計係などの委員を分担して務め、委員会や学校の運営資金も各家庭が供出する。建物も親たちが協力して建てる。フェンスのペンキ塗りは、子供たちにとっても楽しい夏のレクリエーションとして心に刻まれる。

以下に紹介するのは、公立学校からアーミッシュの学校に第七学年から転校した少女の日記であり、そこからアーミッシュの学校生活を窺い知ることができる。

九月に開校すると、少女は四〇人のクラス（同学年生は六名）で学び始めた。日記には、「ワンルーム・スクールは大きな家族のような雰囲気だ……上級生が下級生に教えることもある」と記されている。金曜日以外は毎日算数、スペリングと発音の授業があり、月・火曜日は歴史と地理、水曜日の午後はドイツ語のリーディングの授業がある。木曜日は英語のリーディング、金曜日は保健の授業のほかゲームなどをする。

学校では、馬、犬、子猫、ひよこ、ウサギたちペットも一緒に過ごす。その世話をはじめ、石炭ストーブによる部屋の暖房、モップを使つての床掃除、植物の世話なども子供たちが分担してこなす。冬の間雪が深く先生が来られ

ないときは、父兄の誰かが代わりを務める。五月末の卒業式には、家族も一緒にピクニックに出かけ、ランチを食べ、先生や学長のスピーチを聞き、ソフト・ボールをした。この少女は、卒業後十四歳まで一週間の半分は職業学校に通うという。

● ライフステージの中の教育

アーミッシュの人々の間には、人生の各時期を一生のライフステージの中にどう位置づけるかという共通のイメージが確立している。子供たちはそれを教師、両親、上級生や下級生とともに過ごすうちに体得する。

アーミッシュたちは、一生のライフステージをおよそ次の六段階に分けている。

- ① 赤ん坊 (babies) … 誕生から歩行するまで。
- ② 幼児 (tittle children) … 歩き始めてから、通常六歳か七歳で小学校に入学するまで。
- ③ 生徒 (scholars) … 六歳から一五歳までの学校に通っている子供たち。

- ④ 若者 (young people, youth) … 学校を卒業した、一五歳から結婚するまでの一日中働く者たち。

- ⑤ 成人 (adulthood) … 結婚し(多くの場合二〇歳代前半)、最初の子供が誕生する(子育てする)社会的成熟期。
- ⑥ 老人 (old folks) … 末の子供が結婚し子育てを始め

た親世代。

このうち学童期は、一人前のアーミッシュになるための準備期間であり、人間形成の過渡期であるとされる。学校を卒業しても一五歳に満たない者は、正式メンバーとして社会的活動を行うことはない。自分の意志で洗礼を受け、教会のきまりに従うことを選択して、初めて一人前と認められるのである。

● 大地と自然とのハーモニー

成人と認められるまで、必要とされるのは、アーミッシュとして生きていくのに十分な術を身に付けることである。それは大地と自然とのハーモニーを知ることであり、神意でもある。アーミッシュの文化では、自然は庭であり人間の務めはその世話をする(開拓や開発を意味するわけではない)ことであり、手作業が相応しいとされている。森羅万象の美しさは、規則正しく巡る季節、雄大な天空、

多様な植生、動物の多様性、そして生と死によって感じる
ことができる。したがってアーミッシュは、郊外で農夫と
して勤勉に働き、助けあうことを重視している。大工、石
工、製材所を営むことは認められるが、近年増加している
工場勤務に関しては、オールドオーダー・アーミッシュは
認めていない。都市はレジャーの場であり、生産をせず消
費のみを行う場所で、邪悪が発する場であるとみられて
いる。ゆえに家族生活は都市から離れた場所であるのが望
ましい。アーミッシュのコミュニティは、アメリカ合衆国
とカナダのオンタリオ州の農業地帯に点在しており、とく
にペンシルヴェニア州のランカスターは「ガーデン・スポ
ット」と呼ばれてきた。

農場は親から子へ受け継がれるので、経験と知恵は親か
ら伝えるのが最も自然だとされる。もともと、中には子供
を徒弟に出す (apprenticeship) 親もいる。巧みな技や術
を心得た人々に触れることによって、子供は多くを学ぶと
考えるからだ。アーミッシュのモットーは、実践すること
によって学ぶこと (learning by doing) であり、また教え
られるのではなく、自分で学びとる (catch than
taught) ことである。子供たちは多様な人間関係の中でさ

まざまな年齢層の人々に触れつつ、生きるすべを身につけ
ていく。

昨今の「教育」という言葉にアーミッシュは懐疑的で、
教育が、自我の増幅、自立、権力の獲得をもたらすのであ
れば、それはコミュニティ・ライフを危うくするものと捉
えている。アーミッシュにとつての真の教育は、謙虚さを
培い、簡素な生活をし、神に従うことである。これは、近
代化とミドルクラスの価値観に対抗するものともいえよ
う。親は子供が「イングリッシュ」にならないよう注意深
く見守る。アーミッシュの道を子供に伝えられず子供をこ
の世で精神的に失うことは、神やコミュニティとの関係を
危うくし、天国において共に永遠に生きることを諦めるこ
とに他ならない。

●中等義務教育をめぐる攻防

上述したような信念に支えられたアーミッシュの子育て
は、外の世界との摩擦を引き起こさずにはおかなかった。
合衆国では州ごとに教育に関する法律が異なるが、ほとん
どの州でアーミッシュの親たちが規定された年齢まで子供
たちを学校に通わせないという理由で逮捕されるという事

態が発生した。およそ三〇年間にペンシルヴェニア州では二〇件の対立がおこり、大規模な学校に子供を通わせることを拒んだアーミツシュの親たちは次々に逮捕された。

一九二一年、オハイオ州議会で州のすべての子供たちは認定された学校に一八歳まで通い、歴史、地理、衛生学を学ぶことが定められた。労働許可証は一六歳で得られる。

アーミツシュの人々は、子供たちが読み書きと算数以外の科目を学習することを認めず、新しい法律に従うことを拒否した。五人のアーミツシュの父親が逮捕され、子供たちは「子供の家」に連れて行かれ、「イングリッシュ」と同様の服を着せられ男の子の髪は短く切れ女の子は三つ編みにされた。

一九三八年、ランカスター郡では、第八学年を一四歳で終えた子供たちを家庭に戻そうとする親たちと、義務教育は一七歳の誕生日まで、農業に携わっている場合は一五歳の誕生日までと定めたペンシルヴェニア州の法律の間で齟齬が起こった。一九五五年になってようやくアーミツシュ・コミュニティ内の職業学校に週に三時間出席することを義務とし、それ以外は親の監督下で仕事の活動記録をつけるという調停案が示され、オハイオ州、インディアナ州

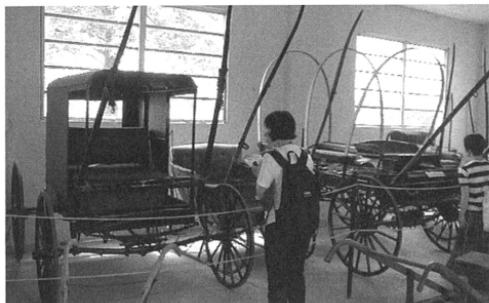
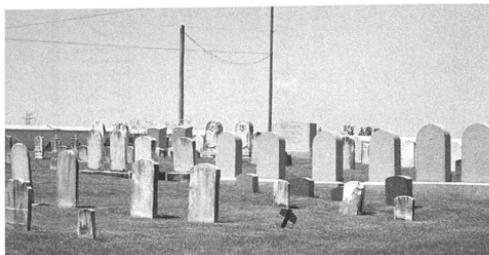
でも適用された。だが、アイオワ州では、一九六〇年代には、アーミツシュ職業学校が州の基準を満たしていないとして教育委員会から勧告を受けた。アーミツシュをめぐる教育問題に関心が集まり、「アーミツシュの信教の自由のための全国委員会」が設立された。

アーミツシュは、聖書の教えから宣誓を拒否しており、伝統的に紛争の解決を裁判に頼ることをしてこなかった。しかし、先の「全国委員会」が弁護士を依頼した件もある。ウイスコンシン州で三人のアーミツシュの父親が子供を高校に通わせなかったために逮捕されたが、一九六八年州最高裁では、中等教育を免除してもそれが社会的脅威となるわけではないという主張が認められ原告が勝訴した。州教育局は連邦最高裁に上告したものの、憲法修正第一条（信教の自由）および修正第一四条（何人も正当な法の手続きによらないで、生命、自由、あるいは財産を奪われることはない等）に基づく判断によって、一九七二年に再び原告が勝訴した。

●子育てと社会化

次世代を育成する行為は、理想とする社会に適合する社

会化という側面を有し、理想とする生活様式や価値観の違いによって「せむ」が生じる。とはいえ「教育」は、決して学校内だけに留まるものではない。「education」という語もラテン語の原義は、「たらす educate」と「ひきだす educere」という二つから構成されていた。それは歴史上、誕生の瞬間から人を心身ともに育くみ社会化する多様な営みを包括している。



〈上〉墓（家族ごと）
 〈下〉バギー 年齢によってバギーも異なる。コーティング・バギーはデートを始める年頃の子供に親からプレゼントされる。

アメリカでは、一九八〇年代に家族の絆や家庭の回復こそが社会を救うという「ホーム・スクール」が急増した。一九九七年の推計では、一二〇万人以上の子供たちが家庭で親たちを教師として学んでいる。メノナイトのローズさんの子供たちも、ホーム・スクールのプログラムによって高等学校の卒業資格を取得する見込みだ。その後は子供たちの考えでそれぞれが好きな道に進めばよい、とローズさんはいう。

アーミッシュの子育てに対する姿勢と外部との摩擦には、子育てに映し出される社会の問題点と可能性の一端が示されてもいよう。

【参考文献】

- Fisher, S. E. & Stahl, R. K., *The Amish School*, Good Books, 1997 [1986].
 Hostetter, J. A., *Amish Children: Education in the Family, School, and Community*, Stanford University, 1992.
 Seitz, Ruth H., *Amish Values: Wisdom that Works*, RB Books, 1995.
 寺崎弘昭・鈴木七美「ヨーロッパ人生区分思想史一七のエチュード」『大人と子供の関係史 第一論集』、一九九四年、〇六頁
 森孝一『宗教からよむ「アメリカ」』講談社、一九九六年
 (京都文科大学／歴史人類学・医療人類学・北米文化学)